

## 第 104 回市民事業専門委員会 会議結果報告

日 時 令和 8 年 5 月 15 日（金） 15 時 00 分～17 時 30 分

場 所 かながわ県民センター 12 階 第 1 会議室

出席委員 増田 清美【委員長】、藤井 京子【副委員長】、青砥 航次、石本 健二、小林 学

### 審議（会議）経過

（事務局）ただいまより、第 104 回市民事業専門委員会を開会させていただきます。専門委員会につきましては、県民会議の扱いを準用し、市民事業専門委員会設置要綱第 5 条により原則公開とさせていただきます。本日の委員会は、委員 5 名の出席になります。

これより議事に入らせていただきますので、議事の進行は増田委員長お願いいたします。

### ■議題 1：令和 9 年度以降の市民事業支援制度について

（増田委員長）事務局より資料の説明をお願いいたします。

（事務局 資料 1 により説明）

（増田委員長）ただいまの事務局の説明について、まずプレゼンの方針についてご意見、ご提案はございますか。小林委員、いかがでしょうか。

（小林委員）事務局案で良いのかなと思います。1 つだけ気になるのは、たくさん団体から申請が出たときに、予算の上限はあるのでしょうか。採択の枠を超えた申請が出た時に、優先順位をつけてここまで採択する、と決めなければいけないのですが、その場合にプレゼンを行う団体と行わない団体で点数が変わらないようにしなければいけないです。

（事務局）予算の上限はありますが、適正な予算の確保に努めます。皆さまには内容の良し悪しで審査いただきたいです。

（小林委員）そうすると 1 次選考で C は不採択ですが、A でも B でも点数が基準に達していれば合格となるということでしょうか。

（事務局）合格基準に達していれば、採択します。

（小林委員）それであれば事務局案でよいと思います。

（石本委員）事務局案でよろしいと思いますが、どちらかがデメリットを負うケースがあるのでしょうか。基本的には今までと同様に 1 次選考で点数をつけ、なおかつ新規団体や内容に新規性がある団体はプレゼンを行うということであると、プレゼンをしてもらう団体は評点が A か B の団体ということでしょうか。

（事務局）新規団体と、継続団体で前年度と内容が変わる団体がプレゼンの対象です。

（石本委員）継続団体について、同じ内容であればプレゼンはしなくてよいということだから、内容によってプレゼンをするかしないかが決まるということをお納得してもらうということですね。今回の事務局案だと、プレゼンで 1 次審査の評点を修正するということがありますが、プレゼンによる評点で 1 次審査から 2 次審査の変化を上手く説明できるような判断が出来るのが気になります。

（事務局）全ての団体がプレゼンを行うのであれば、従来通りの運用でも問題ありません。しかし、2 次選考で点数をつけないと、一部の団体がプレゼンを省略する場合、プレゼンを省略した団体には点数が付与される一方で、プレゼンを実施した団体には点数が付与されない状況が生じるため、2 次選考で落選となった理由が明確でなくなってしまいます。そ

のため、プレゼンを省略する団体があることと、2次選考で点数を付与することはセットで検討する必要があります。

(石本委員) おっしゃることは分かりました。

(青砥委員) 気になったのは、1次選考で評点がCとなり不採択になった団体はプレゼンをするのでしょうか。プレゼンをした結果、採択になる状況はあり得るのでしょうか。

(藤井副委員長) プレゼンをしてもらいたい団体を決定するところまでを第1審査で行い、継続で申請内容が同様の団体でも聞きたければプレゼンしてもらおうとか。書類の中身が不明確でプレゼンを聞くまでもないのは1次審査で不採択にし、AやBの団体でも、プレゼンを行う団体、行わない団体を1次審査で検討しておくのはどうでしょうか。そもそも条件付きでプレゼンをする団体を決めるのは誰なのかが気になりました。

(事務局) プレゼンを行うかどうかは申請内容によって機械的に決めます。どの程度内容が変わったらプレゼンを行うのか等は、今後検討する必要があります。

(増田委員長) それでは、案の通りでよいですね。1次選考及び2次選考の選考方針については、いかがでしょうか。

(石本委員) 評価基準が分かるように団体にはプレゼンをしてもらうということですよ。

(事務局) 募集案内に審査基準を掲載していますので、団体はその基準に沿ったプレゼンをしてもらうことになります。委員の皆様はそのプレゼンが基準に則っているのかという視点で審査いただければと思います。

(その他の委員) 事務局案で異議なし。

(事務局) 単発のイベントの補助について令和9年度から実施するかについてはどうでしょうか。

(石本委員) 1団体に1申請ということは、1年間に1申請ということでしょうか。

(事務局) 1年間に1回です。

(青砥委員) 早い方がよいと思います。イベントの内容はどのようなものが考えられるのでしょうか。

(石本委員) ある一定期間行う展示会を年1回行う場合も対象になるのでしょうか。

(事務局) 市民祭りのようなイベントを想定しています。

(青砥委員) 団体が主催するイベントは当然対象だと思いますが、あるイベントに参加するための費用も対象になるのでしょうか。

(事務局) そのあたりは今後検討していきたいです。

(藤井副委員長) 令和9年度下半期から実施できるのであれば、すぐに実施する方向で考えてはどうでしょうか。5団体くらい申請があれば良い方なのではないでしょうか。

(青砥委員) どのようにPRするかですね。

(小林委員) 来年度の前半からスタートするのに事務局の準備が間に合うのかは心配ですが、間に合うのであればやっていただきたいと思います。

(増田委員長) それでは令和9年度から実施するというので、よろしくをお願いします。

(小林委員) 最後に確認をしたいのですが、昨年度3月の委員会で提案のあった市町村提案事業について、その後の進捗はいかがでしょうか。

(事務局) 今回の委員会では議題にはあげていないのですが、またご相談させていただきたい

です。何らかの形で県民会議委員の皆様のご意見をいただいた上で審査を進めたいと考えています。

(藤井副委員長) 行政との連携はありなのかなと思いました。我々で審査をするところまで行うのは難しいかもしれませんが。

## ■議題2：県民参加のあり方に対する提案書の作成について

(増田委員長) 事務局より資料の説明をお願いいたします。

(事務局 資料2により説明)

(増田委員長) 提案書の記載内容について、ご意見はありますか。

(小林委員) 基本的にこの内容で良いと思いますが、細かい部分で付け加えさせていただきたいです。2点目2行目後半「補助期間の限度を最長5年としていました」から「10年」とするとつながりが悪いので、これまでの課題などを間に入れた方がよいのではないのでしょうか。例えば、「継続性に限界があるといった課題も見られます。」といったつながりの言葉があると、なぜ10年間に変えるのかが分かりやすくなるのではないのでしょうか。また、3点目で、柔軟な支援は当然として、「様々な活動に対して柔軟に支援する」とすると、単発イベントへの支援を行う意味があるのではないのでしょうか。

(石本委員) 分かりやすくてよろしいかと思えます。

(藤井副委員長) 1点目の4行目「現在でも活動を継続する団体もあり」とすると、活動を継続してない団体もあるということになるので、この一文は必要なのか、表現に悩みます。継続していない団体にお金を出していたのはどうなのか、という意見に繋がりがかねないのではないのでしょうか。

(事務局) これまでの取組の成果として、その一文を入れたのですが、表現は悩みました。

(小林委員) 「県内各地で様々な活動が行われてきた」というのが大きな成果になるので、その成果を「県民主体の取組を推進することができた」という文言につなげるのはどうでしょうか。

(藤井副委員長) 団体の継続とかは入れないほうがよいかもしれません。

(青砥委員) 団体の立場からいうと、活動を行っている限り、常にお金が必要なので、補助金があるのは有り難いと思います。若くて活発に活動できる団体もあれば、構成員の高齢化により継続が難しくなっている団体もあるので、補助期限を設けることに違和感を覚えます。毎回、実績報告書を提出し、活動内容が事実として確認できるのであれば、継続して支援できないのかと思っています。今までは団体の自立のために期限をつけていたと思いますが、現実には難しいです。

(増田委員長) 税金を無制限に使っていくわけにはいかないので、期限を設けているのではないのでしょうか。

(水源環境保全課長) 20年の施策であり、無期限というのは難しいと思います。

(石本委員) 期限はあってもいいと思いますが、自立するという考え方は馴染まない活動だと思います。収入化を考えることにパワーが取られて本来の間伐に力を入れることができなかつたという話を聞くと、経済的に自立するという考え方がなじまなかつたのだと思います。また、市民団体の中には地域づくりに取り組んでいる団体もあり、その活動に意義が

あると思います。

(藤井副委員長) ふるさと納税の対象団体に登録をするという方法もあります。

(小林委員) 皆さんの議論を聞いていると、今までは団体の自立化を目指した市民事業支援をしてきましたが、これからはそれだけではなく、継続性や単発イベントの重要性も重視していく提案ができると良いですね。自立化を否定するのではなく、今後は考え方を変えて、継続性や地域社会への貢献も必要だから補助期間を長くして、単発イベントに対しても支援を行うという形にまとめることで、説得力のある提案ができるのではないのでしょうか。

(事務局) ありがとうございます。本日ご議論いただいた箇所を修正し、メールで展開させていただきます。問題がなければ、6月の施策調査専門委員会で提案させていただきたいと考えております。

(小林委員) 最後に事務局に確認をしたいのですが、1ページ目の表の一番下の市町村との関係について、次期計画の中で、都市部住民との交流事業に取り組むとありましたが、県民会議との関わりは何か整理をする必要があるのでしょうか。単純に県の事業と考えてよいのでしょうか。

(事務局) 今のところ別で考えていますが、情報発信チームでも同じようなご意見をいただいております。関わりについては課題であると承知しています。

### ■議題3：市民事業支援制度 20年間の報告書の作成について

(増田委員長) それでは、事務局より説明をお願いします。

(事務局 資料3により説明)

(青砥委員) 報告書案で各事業1団体とありますが、20年間色々な団体が活動を行ってきたので、もう少し団体数を増やしてもいいのかなと思いました。

(小林委員) たくさん書いても意味がないのかもしれませんが、代表的な団体だけというのはとても難しいと思います。森林の保全・再生については大きく分けて人工林対策と里山林対策がありますが、それぞれ別の取組になるので、2つくらい事例を入れられると良いと思います。なかい里山研究所や竹林整備を行っている日本の竹ファンクラブ、直近で訪問した四十八瀬川自然村など、特殊な活動を行っている団体もあるので、可能であれば人工林と里山林を1団体ずつ取り上げると、見た人は、幅広い活動が対象となっていることが分かるのではないかと思います。8ページに収めるのであれば、1ページの中に3団体入れるという方法もあるかと思います。

(青砥委員) 報告書の目的が、次に続く団体の参考となるようなものだとしたら、小林委員の言うように、タイプ別に書かれた方が良い気がしました。

(藤井副委員長) もり・みずカフェのような場で配布できる、団体の取組内容が分かる報告書だと良いのではないのでしょうか。配布するとしたら8ページはちょうど良いサイズかもしれませんが、A5サイズにしてページ数を増やすというやり方もあると思います。補助金事業の募集だけを周知するのではなく、制度の内容や20年間続いてきた取組を1つにまとめた報告書でないと勿体ない気がします。ヒアリング項目を4つ程度に絞れば、より多くの団体を掲載することが可能になるのではないのでしょうか。

(青砥委員) 目的にもよると思いますが、報告書としてまとめるのであれば、20年間取り組ん

- できた中で「1事業1団体しか支援していない」という印象を与えてしまうのではないのでしょうか。
- (増田委員長) 見る側からすると、たくさん書けばいいものではないと思います。
- (青砥委員) 報告はこれでも良いですが、今まで補助を受けた団体の一覧表が掲載されると良いのではないのでしょうか。
- (小林委員) 補助をした団体を一覧表にしてあげないと気の毒だと思います。
- (事務局) 「実績と成果等」の項目に一覧表を掲載したいと思います。
- (藤井副委員長) HPに補助団体情報は掲載されているのでしょうか。
- (事務局) 過去に補助した年度、団体概要は掲載されています。
- (藤井副委員長) 文字で情報を載せることも大事ですが、報告書にHPの二次元コードを載せることで、詳細な内容については、「後はHPをご覧ください」という形にできるので、紙面に割く情報量が変わってきます。
- (青砥委員) 自分からHPにアクセスをするのはハードルが高いので、報告書に二次元コードを載せて、そこからアクセスできる仕掛けは良いと思います。
- (増田委員長) 若い人が、現状のHPを見てどの程度関心を持つのかは気になります。時代の変化に沿って内容等を変える必要があるし、現状のHPは堅い印象があるので、もう少し柔らかくすることで興味を引くのではないのでしょうか。
- (水源環境保全課長) 出来るだけ見ていただけるようなHPに近づけたいとは思っています。
- (藤井副委員長) せっかくなので、報告書にはHPの二次元コードは載せた方が良いと思います。また、アンケート項目については、できるだけ書く人に負担感がないようにした方が良いと思います。4番目の「補助金を活用して良かったことや効果があれば教えてください。」は必要な項目だと思います。
- (事務局) 3番目の「もり・みず市民事業支援補助金を具体的にどのように活用されましたか。」は事務局で作成できそうです。
- (小林委員) 一番知りたいのは4番目の「補助金を活用して良かったことや効果があれば教えてください。」と6番目の「新たに活動を始める団体へのアドバイスやメッセージをご記入ください。」であり、他の項目は書ける範囲で書いてもらうようにするのはどうでしょうか。
- (石本委員) 5番目の「団体の活動を継続する上で工夫していることを教えてください。」は難しいかもしれません。
- (藤井副委員長) 活動内容等は、こちらで把握できる情報を基に文章を作成して、団体に必要に応じて修正していただく形の方が団体としては負担が少なく、有り難いのではないのでしょうか。
- (事務局) 紙面の構成としてはA4サイズに2団体でよいのでしょうか。また、森林の保全・再生事業は人工林・里山林で分けるとして、他の事業も分けた方が良い事業はありますか。
- (石本委員) 分けるのは森林だけでよいと思います。
- (事務局) 森林の保全・再生事業について、湯河原森のなかまは人工林になるので、里山林については補助額が最も多い湘南・二宮ふるさと炭焼会でいかがでしょうか。
- (藤井副委員長) 四十八瀬川自然村も交付額が一番多いので、どこかの事業に入れていただき

たいです。

(事務局) 承知しました。

#### ■議題4： 市民事業現場訪問について

(増田委員長) それでは、事務局より説明をお願いします。

(事務局 資料4により説明)

(石本委員) 自然環境管理サポートセンターの補助期間は1年間のみでしたが、今までに無かった取組なので是非お聞きしたいです。

(青砥委員) 日程については、10月の方がありがたい。

(事務局) それでは、日程は10月11日で、森友の他、自然環境管理サポートセンターにもお声をかけをさせていただく方向で調整します。

#### ■議題5： その他

(事務局) 今年度実施するもり・みずカフェにおいて、昨年度2月に行った県民フォーラムのように団体の活動をPRする場として市民団体のブースを設けたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

(青砥委員) そういった機会はたくさんあった方が良いと思います。

(増田委員長) 異論ありませんので、団体へのお声をよろしくをお願いします。

(青砥委員) 最短で何月のイベントになるのでしょうか。

(事務局) 最短だと8月に予定していますが、まだ情報発信チームでどのイベントに出展するかを決めていない状況です。

(青砥委員) 8月だと来年度の補助金の広報は難しいですね。

(事務局) まだ検討中の段階にあるので、8月は難しいです。

(青砥委員) そういった機会があれば、今後どんどん宣伝できたらいいですね。

#### ■報告事項1： 水源環境保全・再生市民事業支援補助金 令和7年度交付実績

#### ■報告事項2： 水源環境保全・再生市民事業支援補助金 令和8年度交付決定状況

(増田委員長) それでは、事務局より説明をお願いします。

(事務局 資料5～6により説明)

(増田委員長) ありがとうございました。委員の皆さんで質問や確認事項はありますか。

(全委員) 特になし。

(増田委員長) それでは、第104回市民事業専門委員会を終了します。